

令和3年度 東京都立戸山高等学校 推薦に基づく選抜 小論文

注 意

- 1 問題は□1と□2で、4ページにわたって印刷してあります。
- 2 □1と□2の両方とも、それぞれの解答用紙に答えなさい。
- 3 検査時間は50分で、終わりは12時40分です。
- 4 声を出して読むではいけません。
- 5 答えはすべて解答欄に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 6 答えは問題の指示に従って書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 8 受検番号を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 9 文頭は1マス空けないこと。
- 10 句読点および「」などは1字に数え1マスに書きなさい。
なお、数字および小数点は2つで1字として1マスに書きなさい。

裁判員制度について、最高裁判所のウェブサイト調べていた2人の生徒の会話文中にある (A) に入る文章を答えなさい。また、太郎さんになったつもりで、レポートをまとめなさい。

なお、(A) の字数は 50 字以内、レポートは 150～200 字とする。

【会話文】

太郎さん これまで、約 89,000 人の国民が裁判員等として刑事裁判に参加したらしいよ。裁判員対象事件って、刑事事件第一審全体の 1.6% に過ぎないみたいだけど。

花子さん 20 歳になったら、裁判員に選ばれるかもしれないよね。でも、仕事とか忙しかったらどうしよう。〔資料 1〕と〔資料 2〕を関連付けてみると、始まった当初と比べて、(A) と推察できるよ。

太郎さん でも、ある程度十分な時間をとって議論をしないと、納得できる評議ができないよね。

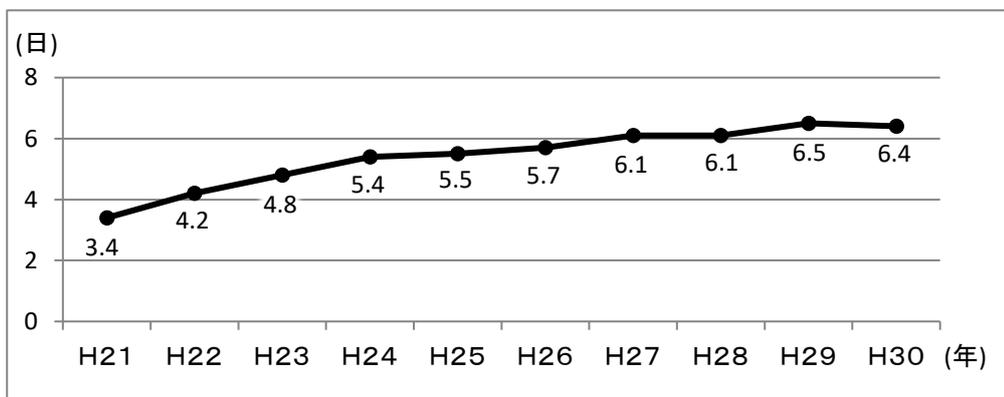
花子さん 〔資料 3〕をみると、多くの人が裁判員制度に期待しているのがわかるよね。

太郎さん 〔資料 4〕〔資料 5〕をみると、実際に裁判員に選ばれた人が、選ばれる前と後で気持ちが大きく変わっているのがわかるね。

花子さん そうだね。「よい経験」って、具体的にはどういう点がよかったのかな。

太郎さん じゃあ、裁判員制度の目的も踏まえて、裁判員として裁判に参加することのよい点を一緒に考えて、レポートをまとめてみようよ。

〔資料 1〕 平均実審理予定日数の推移



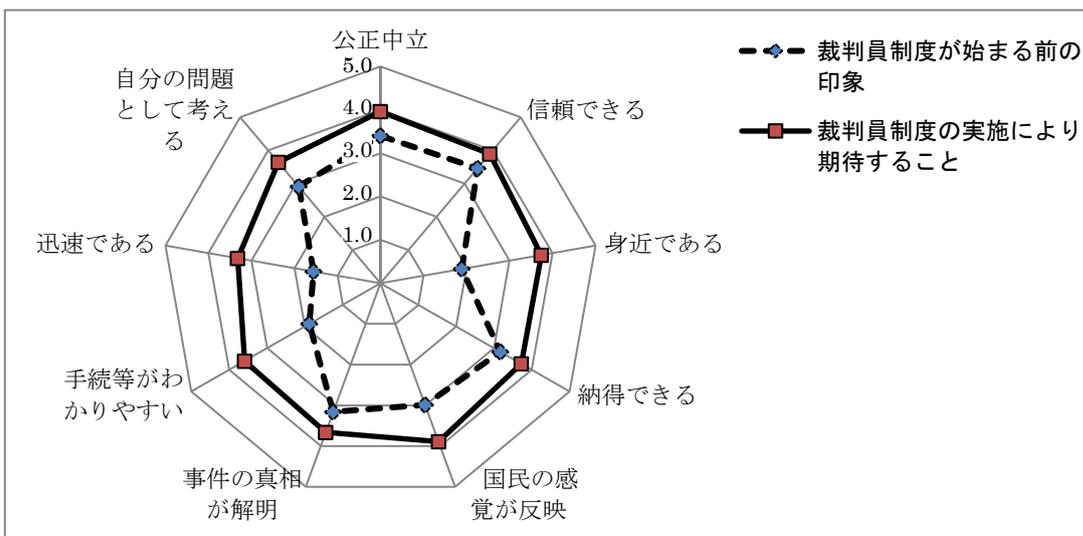
実審理予定日数は、裁判員等選任手続き期日のお知らせに記載されている公判期日等（評議のみ、判決のみの日を含み、選任手続き期日のみの日を含まない。）が予定されている日数の合計である。

〔資料 2〕 裁判員辞退率

年	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
辞退率%	53.1	53.0	59.1	61.6	63.3	64.4	64.9	64.7	66.0	67.1

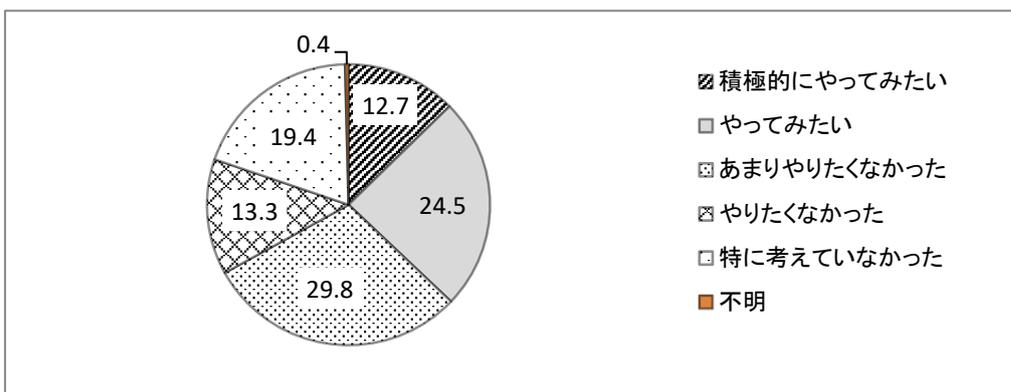
辞退率 (%) : 辞退が認められた裁判員候補者の総数 ÷ 選定された裁判員候補者数 × 100

〔資料3〕 刑事裁判の印象（20歳以上の者への意識調査の平均点）

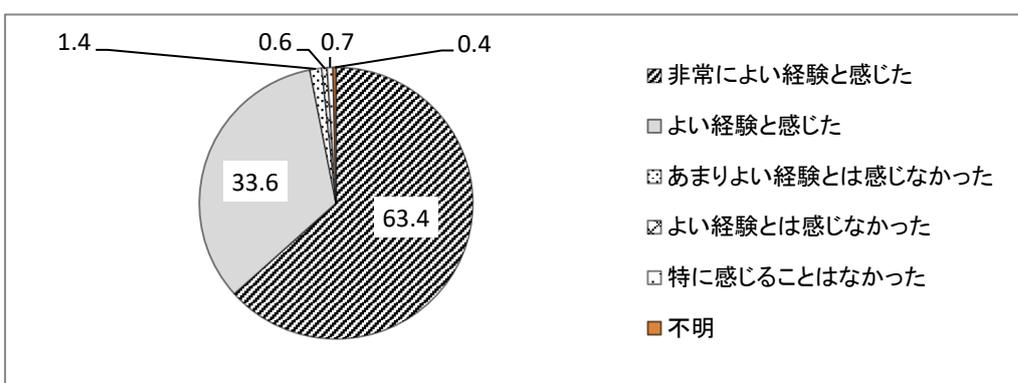


平均点は「そう思う」5点, 「ややそう思う」4点, 「どちらともいえない」3点, 「あまりそう思わない」2点, 「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

〔資料4〕 裁判員に選ばれる前の気持ち (%) （裁判員等経験者に対する調査）



〔資料5〕 裁判員として裁判に参加した感想 (%) （裁判員等経験者に対する調査）



（資料は「裁判員制度10年の総括報告書」（令和元年5月 最高裁判所事務総局）および「裁判員裁判の実施状況等に関する資料」「裁判員制度の運用に関する意識調査」「裁判員等経験者に対するアンケート調査結果」（令和元年度）から作成）

パソコン1（以下PC1とする）とパソコン2（以下PC2とする）で作成した音の波形を、パソコン3（以下PC3とする）でたし合わせて、その音をスピーカーから出す実験を行った。

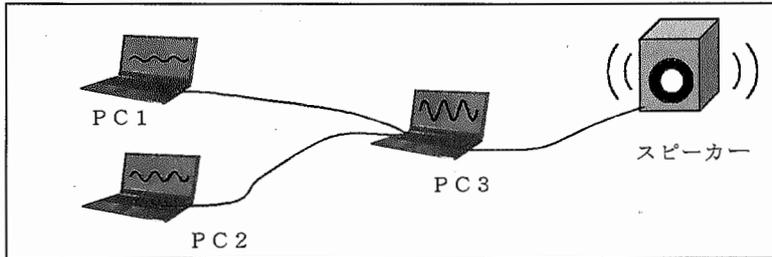


図1 パソコンとスピーカーの配線

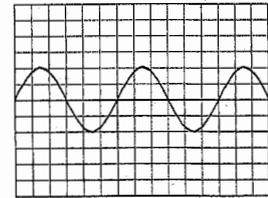


図2 もとの波形
(横軸：時間、縦軸：振幅)

PC1とPC2には、図2に示されるもとの波形に対して、図3のような音をつくる機能がある。

機能1 音の高さをかえることができる

高い音を出すことができる。(振動数が2倍)

低い音を出すことができる。(振動数が0.5倍)

機能2 音の大きさをかえることができる

大きい音を出すことができる。(振幅が1.5倍)

小さい音を出すことができる。(振幅が0.5倍)

機能3 山と谷を反転させることができる

山と谷を反転させることができる。

上記機能1～3の2つあるいは3つを組み合わせて操作することができる

機能1を使って音の高さを3分の2倍し、機能2を使って音の大きさを0.5倍し、機能3を使って山と谷を反転させた。

図3 音をつくる機能 (横軸：時間、縦軸：振幅)

PC3には、図4のように音をたし合わせる機能がある。

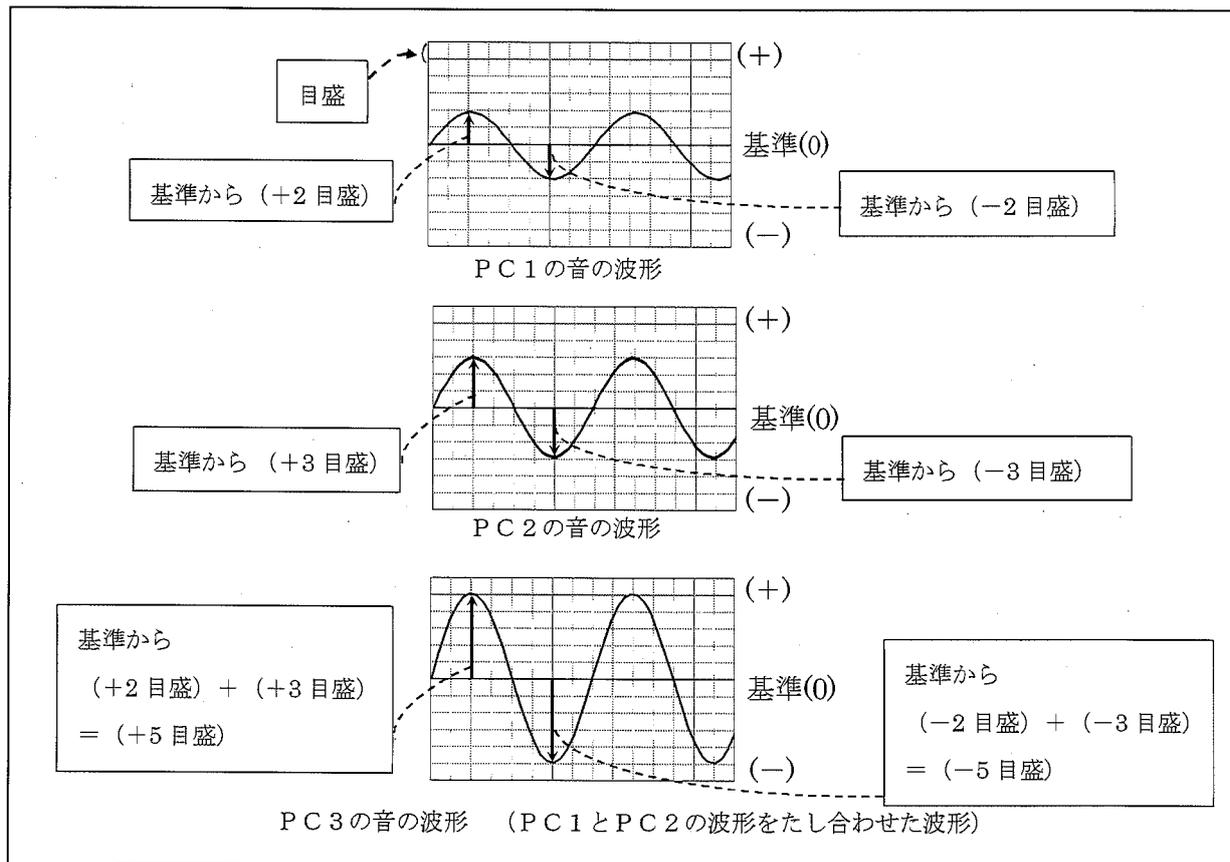


図4 音のたし合わせのしくみ (横軸：時間，縦軸：振幅)

問1 PC1で、図5の波形で表される音を作成した。PC3につなされたスピーカーから出る音をなくすためには、図2に示されるもとの波形を基準として、PC2でどのように操作を行えばよいか記述しなさい。また、音が消えるしくみについても記述しなさい。

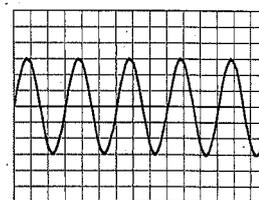


図5 PC1で作成した音の波形 (横軸：時間，縦軸：振幅)

問2 問1の音が消えるしくみを、あなたなら身の回りでどのように役立てるか、具体的な場面を含めて記述しなさい。

解答用紙

2

問 1

(操作)

(しくみ)

問 2

受 検 番 号	得 点